

商業教員養成所一覽

目次

一學年曆	一頁	一生徒心得	一九
沿革概略	一	主事	二三
實業學校教員養成規程	三	一生徒現員	二三
商業教員養成所規程	六	一生徒年級表	二三
總則	六	一生徒年齡表	二四
學科課程	七	一生徒身體檢查統計表	二四
學年、學期、休業	一〇	一生徒入學前卒業學校別及府縣別表	二六
入學、在學、退學	一一	一卒業生及就職先	二九
休學	一五	一卒業生府縣別表	三七
試驗、進級及卒業	一六		
實業學校教員養成規程ニ依ル補給學資	一八		
支給手續			

商業教員養成所一覽

學年曆

(本校ニ同シ)

沿革概略

本所ハ明治三十二年^三月文部省令第十三號實業學校教員養成規程ニ依リ商業學校及商業補習學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スルノ目的ヲ以テ高等商業學校内ニ設置シ同校長之ヲ管理ス、五月高等商業學校教授水島鐵也主任ヲ囑託セラル、同月規則ヲ制定ス、其要生徒ハ師範學校、中學校若クハ甲種以上ノ商業學校卒業生ニシテ地方長官ノ推薦セル者ノ中ヨリ選抜シ若シ定員ニ滿タサルトキハ一般ニ募集シ試験ニ合格セルモノニ就キ之ヲ選抜ス修業年限ハ二箇年トシ生徒在學中ハ之ニ學資ヲ補給ス九月授業ヲ開始ス

明治三十五年一月水島鐵也主任ヲ辭シ高等商業學校教授東夷五郎主任ヲ囑託セラ、四月東京高等商業學校ニ本所ヲ附設セラル、同月東京高等商業學校教授東夷

五郎主事ヲ命セラル、同月更ニ實業學校教員養成規程ヲ發布セラル、隨テ本所規程ヲ制定ス、其ノ要舊規則ニ同シ、十月規程中學資補給ノ章ヲ改正ス

同三十六年一月主事東京高等商業學校教授東夷五郎、神戸高等商業學校教授ニ任セラレ、二月東京高等商業學校教授佐野善作主事ヲ命セラル

同四十年二月規程中試驗及卒業ノ章ヲ改正ス、十二月規程中ヲ改正ス、是時休學ノ章ヲ設ク

同四十二年五月東京高等商業學校教授佐野善作職ヲ辭シ、東京高等商業學校教授奈佐忠行主事ヲ命セラル

同四十四年三月規程中ヲ改正ス、是時修業年限ヲ四箇年トス

同四十五年三月試驗進級及卒業規程中ヲ改正ス

大正四年六月總則、入學在學退學規程中ヲ改正ス、學資補給ノ規程ヲ廢ス、七月本所卒業生ノ本校專攻部ニ入學シ得ルコト、ナレリ、九月學科課程ヲ改正ス、十一月學年學期、休業規程、試驗進級及卒業規程中ヲ改正ス

同五年一月入學在學退學規程中ヲ改正ス

實業學校教員養成規程

文部省令第七號 (大正四年三月三十一日)

第一條 東京帝國大學農科大學附屬農業教員養成所、東京高等商業學校附設商業教員養成所及東京高等工業學校附設工業教員養成所ノ生徒ニハ授業料ヲ徵收セス

前項養成所ノ研究生ニハ一箇月拾圓以内ノ學資ヲ補給スルコトアルヘシ

帝國大學及文部省直轄諸學校ノ學生々徒ニシテ卒業ノ後實業學校ノ教職ニ從事セントスル者ニハ授業料ヲ免除スルコトヲ得

第二條 前條養成所ノ生徒及前條第三項ニ依リ授業料ヲ免除セラレタル者ハ卒業ノ日ヨリ左ノ期間文部大臣ノ指定ニ依リ實業學校ノ教職ニ従事スヘキ義務ヲ有ス、但シ必要ノ場合ニ於テハ文部大臣ハ他ノ教職ニ従事スルノ義務ヲ負ハシムルコトアルヘシ

- 一 養成所ノ生徒ハ其ノ在學期間ノ二分ノ一
- 二 養成所ノ生徒ニシテ學資ノ補給ヲ受ケタル者ハ其ノ補給ヲ受ケタル年限

ニ第一號ノ期間ヲ加ヘタル期間

三 授業料ヲ免除セラレタル者ハ其ノ免除セラレタル期間ノ二分ノ一

第三條 前條ノ義務期間内ニ於テ學校ニ入學シ若ハ外國ニ留學セントスル者アルトキハ文部大臣ハ時宜ニ因リ之ヲ許可スルコトアルヘシ

前項ニ依リ許可ヲ受ケタル者ノ當該學校ニ在學中若ハ外國留學中ノ期間ハ前條ノ義務期間ニ算入セス

第四條 第二條ノ義務期間内ニ於テ文部大臣ノ指定ヲ受ケサルカ爲任意就職シタル者ハ其ノ旨直ニ文部大臣ニ届出ツヘシ其ノ就職ヲ罷メ又ハ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

前條ノ許可ヲ受ケタル者學校ヲ卒業又ハ退學シ若ハ歸朝シタルトキハ直ニ文部大臣ニ届出ツヘシ

第五條 第一條養成所ノ生徒及同條第三項ニ依リ授業料ヲ免除セラレタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ授業費學費又ハ授業料ヲ償還セシム但シ文部大臣ハ事情ヲ酌量シテ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

一 退學ヲ命セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退學シタルトキ

二 實業學校教員タルノ志望ヲ變更シタルトキ

三 第二條ノ義務ヲ盡サス又ハ第三條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ入學若ハ留學シタルトキ

前項授業費ノ額ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ各教員養成所ニ於テ之ヲ定ム

第六條 地方長官ニ於テ文部大臣ノ指定ニ依リ教職ニ従事スル者ニ其義務期間内轉任退職若ハ休職ヲ命セントスルトキハ事由ヲ具シ豫メ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ但シ陸海軍現役ニ服シ又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタルカ爲當然休職トナリタル者アルトキハ其ノ旨直ニ文部大臣ニ報告スヘシ休職期間満了ノ爲退職者トナリタル者アルトキ若ハ休職期間中復職ヲ命シタルトキ亦同シ

第七條 各養成所ニ募集スヘキ生徒ノ員數ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前各教員養成所ニ入學シタル者若ハ帝國大學及文部省直轄諸學校ノ學

生々徒ニシテ學資ノ補給ヲ受ケタル者ニ關シテハ仍從前ノ規程ニ依ル

商業教員養成所規程

第一章 總則

- 第一條 本所ハ實業學校教員養成規程ニ依リ商業學校ノ教員タルヘキモノヲ養成スルヲ以テ目的トス
- 第二條 本所ノ修業年限ハ四箇年トス
- 第三條 本所ハ授業料ヲ徴收セス
- 第四條 削除
- 第五條 本所ノ生徒ハ卒業ノ後在學期間ノ二分ノ一ノ期間文部大臣ノ指定ニ依リ實業學校ノ教職ニ従事スヘキ義務アルモノトス
- 第五條ノ二 本所ノ生徒ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ授業費ヲ償還スヘキモノトス但シ文部大臣ハ事情ヲ酌量シテ其全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

- 一 退學ヲ命セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退學シタルトキ
 - 二 實業學校教員タルノ志望ヲ變更シタルトキ
 - 三 前條ノ義務ヲ盡サス又ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケスシテ學校ニ入學シ若ハ外國ニ留學シタルトキ
- 前項授業費ノ額ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ本所ニ於テ之ヲ定ム
- 第六條 生徒心得ハ校長ノ定ムル所ニ依ル

第二章 學科課程

第七條 學科課程ハ左表ノ如シ

科 目	每 週 時 間			
	第一 年	第二 年	第三 年	第四 年
一 修 身	一	一	一	一
二 商 業 通 論	二			
三 銀 行 及 取 引 所			三	
四 交 通		三		

商業教員養成所規程

三二	三二	三二	三二	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九
外國語	英語	商業史	近世史(英語)	手續法	國際法	商法	民法	法學通論	統計學	財政學	商業政策	貨幣論	經濟原論	
	八		一					三						
		七					三							
									一			一		
														二
											二	二		
		四												
	四	四	二	二	二	三								

一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五
經濟大意	東洋經濟事情	機械及電氣工學	應用化學	商品及商業地理	書法	作文	商業算術	商業實踐	計理學	英文簿記	銀行簿記	商業簿記	保險
							(珠算)					三	
二		二	二		一	一							
						一	二				二		
													三
一													
									六	一			

三三	論理及心理	二			
三四	教育學、教授法		一		
三五	體操	三	二	二	
時間	合計	三二	三〇	三一	三二

第三及第四學年ニ於テ隨時實地授業又ハ見學ヲ爲サジム

第三章 學年、學期及休業

第八條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第九條 學年中ニ二學期ヲ設ク第一學期ハ四月十一日ヨリ七月二十日ニ至リ第二學期ハ九月十一日ヨリ翌年三月二十四日ニ至ル

第十條 年中休業左ノ如シ

- 但休業中ト雖モ教員ノ見込ニ依リ或學科ノ補習又ハ實業ノ調査ヲ命スルコトアルヘシ
- 一 毎日曜日
- 一 神武天皇祭

- 一 明治天皇祭
- 一 天長節
- 一 秋季皇靈祭
- 一 神嘗祭
- 一 天長節祝日
- 一 新嘗祭
- 一 紀元節
- 一 春季皇靈祭
- 一 春季休業 三月二十五日ヨリ四月十日ニ至ル
- 一 夏季休業 七月二十一日ヨリ九月十日ニ至ル
- 一 冬季休業 十二月二十五日ヨリ一月七日ニ至ル

第四章 入學、在學、退學

第十一條 本所ハ學年ノ始ニ於テ入學ヲ許ス

第十二條 師範學校、中學校、甲種商業學校卒業生若ハ專門學校入學者檢定規程ニ

依ル試験檢定ニ合格シタル者又ハ專門學校入學者檢定規程ニ依リ一般專門學校ノ入學ニ關シ無試験檢定ノ指定ヲ受ケタル者ニシテ年齡滿十七年以上身體壯健品行方正且ツ教員タル志望堅固ナル者ハ試験ノ上入學ヲ許可ス

師範學校、中學校又ハ甲種商業學校ニ在學スル者ニシテ當該學校長ヨリ其年三月ニ卒業スヘシト認メラレタル者ハ同年ニ於ケル本所入學ニ關シ當該學校ノ卒業者ニ準スルコトヲ得但シ豫定期ニ卒業セサリシトキハ其ノ入學ニ關スル手續ハ總テ効力ヲ失フモノトス

第十三條 入學試験ハ修身、國語、漢文、書法、作文、數學、地理、歷史、圖畫、物理、化學、博物、英語ノ各科目ニ就キ中學校卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行フ

前項ノ學科目ハ時宜ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ經テ其ノ一科目又ハ數科目ヲ省略スルコトアルヘシ

第十四條 師範學校、中學校又ハ甲種商業學校ヲ卒業シタル入學志願者ニシテ所定ノ學年間當該學校ニ在學シ各學年首位ヨリ算ヘテ及第者總數ノ十分一以內ノ席次ヲ有シ卒業ノ際第五位以上ノ席次ニ在リタル者ハ若干名ヲ限リ試験ヲ

用キス入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十二條 第二項ニ規定セル入學志願者ニシテ在學中既往ノ成績前項ノ規定ニ該當スル者ハ無試験檢定ヲ出願スルコトヲ得但シ卒業期ニ於テ前項規定ノ成績ヲ得サリシトキハ右出願ノ効力ヲ失フモノトス

本條ニ該當スル者ノ身體ハ先ツ身體檢査證ニ依リ檢査シ入學前更ニ本所ニ於テ檢査ヲ行フモノトス

第十五條 削除

第十六條 募集スヘキ生徒ノ員數及期日等ハ其ノ都度公告スヘシ

第十七條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ保證人一名ヲ立テ誓書ヲ認メ其ノ年四月十日迄ニ本校ヘ提出スヘシ

第十八條 保證人ハ丁年以上ノ男子ニシテ東京市内ニ於テ一家ヲ立テ生徒ノ身分ニ關シ一切引受クルニ足ルヘキ關係及相應ノ資産ヲ有スル者ニ限ル

第十九條 保證人死去若ハ前條ノ資格ヲ失ヒタルトキハ速ニ他人ヲ以テ之ニ代ヘ更ニ誓書ヲ差出スヘシ

第二十條 削除

第二十一條 生徒若シ學業ヲ怠リ又ハ品行修ラス若ハ疾病等ノ故ヲ以テ成業ノ

見込ナシト認ムルトキハ退學セシムヘシ

印紙 誓書

私儀今般商業教員養成所へ入學御許可相成候ニ付テハ御規則ヲ遵守シ專心勉強可仕又卒業ノ後ハ御規定ノ義務ニ服シ可申候仍テ誓書如此候也

本籍族稱職業

(某子弟又ハ被後見人等)

年月日

氏名印

何年何月何日生

宿所 東京市何區何町何番地

前書ノ趣相違無之ニ付拙者保證人ニ相立テ本人ニ係ル一切ノ事件引受可申仍テ保證如斯候也

但貴所御規則ハ總テ承知致シ候也

年月日

本籍族稱職業

保證人 氏

名印

何年何月生

宿所

東京高等商業學校長何某殿

前書保證人某ハ丁年以上ニシテ當區内ニ於テ一家ヲ立ツル者ニ相違無之候也

年月日

何區長印

第五章 休學

第二十二條 生徒疾病又ハ避クヘカラサル事故ニ因リ滿二箇月以上修學シ能ハスト認ムルトキハ保證人連署ヲ以テ校長ニ願出テ其許可ヲ以テ滿壹箇年以内休學スルコトヲ得其疾病ニ罹リタルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要ス但シ其疾病平癒シ又ハ事故止ミタルトキハ休學期間内ト雖其旨届出テ就學スルコトヲ得

第二十三條 生徒ノ陸海軍ノ現役ニ在ル者及召集中ノ者ハ校長ノ許可ヲ得テ其間休學シ現役又ハ召集終レハ直チニ其原級ニ復スルコトヲ得

第六章 試験、進級及卒業規程

第二十四條 試験ヲ分チテ學年試験及學期試験ノ二種トス

學年試験ハ其學年中ニ履修シタル學科ニ就キ學年末ニ於テ之ヲ執行ス

學期試験ハ第一學期末ニ於テ各科目ニ就キ之ヲ施行ス但シ每週教授時數一時間ノ學科ニ就キテハ學期試験ヲ省略スルコトアルヘシ

第二十五條 學科目ニ依リ便宜之ヲ數科目ニ分チ其成績ヲ定ムルコトアルヘシ

第二十六條 各學科目學年ノ成績ハ學年試験ノ成績ト學期試験ノ成績トヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第二十七條 成績ハ點數ヲ以テ定メ百點ヲ滿點トス

各科目ノ點數五十點以上平均點數六十點以上ヲ得タル者ヲ及第トス但シ五十點未滿ノモノ一科目ナル場合ニ限り特ニ及第トスルコトアルヘシ

第二十八條 珠算、作文、書法、商業實踐、外國語及體操ハ平常ノ成績ヲ以テ學期試験

及學年試験ノ成績ニ代フルコトアルヘシ

第二十九條 學期試験ニ缺席シタル者ハ特ニ校長ノ許可ヲ經ルニアラサレハ學年試験ヲ受クルコトヲ得ス

第三十條 學年試験ニ缺席シ追試験ヲ受ケントスル者ハ其試験期日內ニ其旨ヲ願出ツルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ學期試験ノ成績ト平常ノ勤惰トヲ審査シテ之ヲ許可スルコトアルヘシ

本條ニ依リ試験ヲ施行スル場合ニハ其ノ科目ニ對スル評點ニ係數奇零九ヲ乘シテ得點トス

第三十條ノ二 不合格者ニシテ前學年ニ於テ七十點以上ノ點數ヲ得タル課目ニ就キテハ其試験ヲ省略スルコトアルヘシ

第三十一條 卒業者ニハ卒業證書ヲ授與ス

卒業ノ席次ハ各學年ノ成績ヲ勘合シ其優劣ニ依リ之ヲ定ム

附 則

大正四年七月以前ニ入學シタル者ニハ本規程中第五條及第五條ノ二ハ適用セ
ス仍從前ノ規定ニ依ル
本規程中學科課程ハ大正四年九月十一日ヨリ之ヲ施行ス但シ該學科課程施行
ノ際現ニ第二級以上在學ノ生徒ニ課スヘキ學科課程ハ其ノ卒業ニ至ルマテ
仍從前ノ規定ニ依ル

實業學校教員養成規程ニ依ル補給學資支給手續

- 第一條 明治三十五年文部省令第九號第一條ノ補給學資ハ毎月二十五日(休日ナ
レバ繰之ヲ支給ス月ノ央ニ於テ學資ノ支給ヲ止メタルトキハ前項ノ支給日ニ拘ハ
ラス其際支給ス
- 第二條 農業教員養成所工業教員養成所商業教員養成所及水産講習所水産教員
養成科生徒ハ入學ノ日ヨリ其他ノ學生生徒ハ誓書提出ノ日ヨリ學資ヲ支給ス
- 第三條 疾病ニ依リ引續キ缺課スルコト六十日ヲ踰ユル者又ハ私事ノ故障ニ依
リ引續キ缺課スルコト二週日ヲ踰ユル者ハ其翌日ヨリ缺課中學資ヲ支給セス

校則ニ依リ休學ノ許可ヲ受ケタル者若ハ停學ニ處セラレタル者ハ其休學停學
中ハ學資ヲ支給セス

第四條 夏季休業中ハ學資ヲ支給セス但シ夏季休業中ト雖學科ノ補習又ハ實業
ノ調査ヲ命セラレタルトキハ其間學資ヲ支給ス

第五條 學資ヲ補給スヘキ日數一箇月ニ滿タサルトキハ其月ノ現日數ニ依リ日
割計算ヲ以テ之ヲ支給ス

前項日割計算ノ場合ニ於テ錢位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨ツルモノ
トス

生徒心得

第一條 忠孝ヲ旨トシ本分ヲ重シ義務ヲ守ツ人ニ接スルニ温良謙讓事ヲ執ルニ
誠實果敢以テ真正ノ教育者タルヘキ性格ヲ養成スヘシ平素攝生ニ注意シ身體
ノ强健ヲ圖リ以テ快活ノ精神ト進取ノ氣象トヲ養成スヘシ

第二條 常ニ教室ノ神聖ナルヲ思ヒ秩序ヲ重シ専心以テ學術ヲ習得スルヲ勉ム
ヘシ

長上ニ對シテ敬禮ヲ行フヘキハ勿論學生生徒相互ノ間ニ於テモ亦禮讓ヲ貴フヘシ

第三條 登校ノ節ハ制服制帽ヲ着用スヘシ

第四條 放課ノ時間ト雖靜肅ヲ旨トシ苟モ喧噪ノ行爲アルヘカラス

第五條 校内ニ在リテハ所定ノ場所以外ニ於テ飲食喫烟スヘカラス

第六條 病氣其他ノ事故ニヨリ缺席セントスルトキハ其理由ヲ記シタル届書ヲ

差出スヘシ其缺席二週日以上ニ及フトキハ保證人ノ連署ヲ要ス但シ病氣ノト

キハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第七條 生徒又ハ保證人ニシテ氏名ヲ改メ又ハ轉籍轉居シタルトキハ直ニ其旨

ヲ届出ツヘシ

第八條 校内ニ於テ事ノ何タルヲ問ハス許可ナクシテ漫ニ會合スヘカラス

第九條 凡ソ告示ハ之ヲ掲クルノ日ヨリ一般ニ知了シタルモノト認ムルヲ以テ

常ニ之ニ注意スヘシ

第十條 學校ノ器物又ハ圖書ハ專ラ鄭重ニ之ヲ取扱フヘシ若シ過チテ汚損又ハ

亡失シタルトキハ直ニ其旨ヲ届出テ處置ヲ受クヘシ

第十一條 諸規程ニ悖戾シ若ハ長上ノ命令訓誡ニ從ハサル者ハ各其情狀ニ照シ
ハ處罰ヲ加フヘシ

主事

東京高等商業學校教授理學士 奈佐忠行靜岡縣平民
生徒現員(三十六人) (大正五年五月十五日調)

第四年生(六人)

松崎實次	愛知
提箸蘇一郎	栃木
畑中英太郎	愛知
加藤仙正	愛知
神倉佐安	神奈川
塚田知一	東京
井上光次	京都
伊藤義一	廣島

第二年生(八人)

山崎善次	鳥取
相澤直美	北海道
渡部秀雄	山形
山科勉	山形
森脇壽一郎	兵庫
遠山儀八	巖手
西森義親	愛媛
有賀清海	長野
千葉多末	青森

第一年生(十二人)

相馬忠雄	新潟
福住禎一	山口
有田三代次	廣島
多鹿茂雄	兵庫
足立一良	兵庫
田中英吉	靜岡
江森初三郎	栃木
近本與一	兵庫
渡邊喜三郎	巖手

堤瀧三	靜岡
仲佐祐作	千葉
湯淺猛	岡山
田尻愛義	島根
宗像善雄	福島
森武臣	岡山
平野保三	千葉
豐田雄吉	山形
京谷謙吉	愛媛
一條貴	宮城

生徒年級表

(大正五年五月十五日調)

生徒年齡別
(大正五年五月十五日調)

種別	生徒年齡別				計
	第一 年	第二 年	第三 年	第四 年	
最高	二七、〇八 _月	二四、〇六	二五、〇九	二三、一一	
最低	二一、〇九 _月	一九、〇三	一九、〇三	一八、〇一	
平均	二四、〇九 _月	二二、〇五	二二、〇六	二〇、一〇	三六
人員	二四	二二	二一	二〇	八六

(大正五年四月檢查)

生徒年齡表
生徒身體檢查統計表

學級	第一 年			第二 年			第三 年			第四 年			身 長	體 重	胸圍盈虛ノ差	人 員				
	平 均	最 少	最 大	平 均	最 少	最 大	平 均	最 少	最 大	平 均	最 少	最 大								
第一	五、三二	五、二六	五、三六	一四、六四〇	二七	五	第二	五、二四	四、八五	五、五七	一四、〇二〇	二五	九	第三	五、四二	五、一二	五、六二	一三、九五〇	三六	七
第四	五、三六	五、二一	五、四八	一四、四七〇	二四	一〇														

備考 平均ハ最大最少ノ平均ニアラスシテ總人員ノ平均ナリ

生徒入學前卒業學校別及府縣別表(大正五年五月十五日調)

道廳府縣	種別	種別			
		師範學校	中學校	商業學校	小計
北海道		—			—
東京府				—	—
大阪府		—			—
京都府				—	—
兵衛庫		—			—
長崎				—	—
新潟		—			—
群島					—
計		—	—	—	—

千茨栃奈三愛靜山滋岐長宮福巖

葉城木良重知岡梨賀阜野城島手

千茨	—
栃	—
葉	—
城	—
木	—
良	—
重	—
知	—
岡	—
梨	—
賀	—
阜	—
野	—
城	—
島	—
手	—
計	—

生徒入學前卒業學校別府縣別

青 山 秋 福 石 富 島 鳥 岡 廣 山 和 德 香

歌

森 形 田 井 川 取 根 山 島 口 山 川

— — — — —

— — — — —

— —

— — — — —

愛 高 福 大 佐 熊 宮 鹿 沖 合

兒

媛 知 岡 分 賀 本 崎 島 繩 計

三三

一〇

四

三五六

卒業生及其就職先

明治三十四年卒業(二十三人)

東京海上保險株式會社

小野十郎 東京

△印、專攻部在學者
●印、死亡者

市立名古屋商業學校

村瀨

圭愛知

釜山公立商業專修學校

北川勝次郎 滋賀

文部省

泉屋清次郎 石川
 ●近藤達二郎 京都
 田中融 島根
 伊藤資生 宮城
 山口改
 ●瀨戸口竹二 佐賀
 増澤寅次郎 新潟
 松村明敏 栃木
 姫路市立姫路商業學校
 關西甲種商業學校
 株式會社住友銀行橫濱支店
 白井源吉 鳥取
 ●鈴木新次郎 靜岡
 織田改
 岩田眞一 福井
 福士德平 慶手
 足達丑六 高知
 高山經慶 愛媛
 仁川公立商業學校
 神戶市立神港商業學校
 釜山商業學校
 神戶市立商業補習學校
 京市立商業學校

合資會社長田商店 長田捨藏 兵庫
 市立名古屋商業學校 寄田龍彦 愛知
 香川縣立商業學校 井上廣太郎 香川
 石川縣七尾町立商業學校 根岸近仁 新潟
 三重縣立四日市商業學校 加藤耕福 井
 東洋協會大連商業學校 松本喜一 富山
 同三十八年卒業(二十七人)
 市立小倉商業學校 村瀨玄 愛知
 市立長野商業學校 丸山辨三郎 長野
 ●竹內正太郎 靜岡
 川村瓊一 東京
 加藤子郎 靜岡
 野田益太郎 兵庫
 桑田仙之助 兵庫
 靜岡市立靜岡商業學校
 兵庫縣立神戶商業學校
 東京錦城商業學校
 株式會社名古屋銀行
 蘇原銀行

岐阜市立岐阜商業學校 曾我智道 靜岡
 東京市立商業學校 黒川善一 東京
 盛岡市立商業學校 小室洵一 栃木
 石川縣立金澤商業學校 早藤石太郎 福井
 市立大阪甲種商業學校 松尾慶次郎 京都
 株式會社内國貯金銀行(濱松代理店) 市川友三郎 靜岡
 森改
 滋賀縣立八幡商業學校 田中千代松 愛知
 三井物産株式會社 鷺見基助 岡山

同三十八年卒業(二十六人)

香川縣綾歌商業學校
 ●岩林喜之助 兵庫
 金山永三郎 島根
 ●吉田茂太郎 香川
 小瀧勝香川
 宮本實藏 熊本
 村上乙彦 熊本
 私立明星商業學校

橫濱商業學校 長野廉二 岡山
 日本女子商業學校 森富次郎 滋賀
 株式會社臺灣銀行 竹本節藏 廣島
 石川改
 山本知太郎 東京
 柴山清作 栃木
 近藤英三 德島
 群馬縣高崎市立甲種商業學校
 德島縣立商業學校

追 試 験

愛媛縣立八幡濱商業學校 岩野由岐太 德島
 飯田豊次郎 富山

北山喜一 大分
 川島馬太郎 高知
 高木脩吉 福岡
 河地大輔 山口

神奈川電氣株式會社

松田喜三郎 三重

川尻改

吉永專吉 三重

新潟縣刈羽郡立商業學校

廣田嘉一 愛媛

島根縣立商業學校

山本廉二郎 島根

宮島賢次郎 千葉

平和長之助 島根

谷口實次 愛媛

唯野真琴 福島

石井清之助 三重

鹽田近太郎 香川

安田久之助 岐阜

伊藤最一 香川

早川小三郎改

竹田正己 神奈川

諏訪原義衛 千葉

品川白煉瓦株式會社
(大阪支店)

松田新太郎 靜岡

京都市立京都第一商業學校

住登勝藏 德島

宮崎縣北縣郡立都城商業學校

吉田光藏 德島

橫濱正金銀行(東京支店)

篠澤春太郎 愛媛

京城市立簡易商業學校

栗原重康 福井

橫濱正金銀行(東京支店)

齋藤晴治郎 香川

小樽高等商業學校

瀨谷佐次郎 福島

京都市立商業實修學校

勝田梧郎 茨城

山形縣酒田町立酒田商業學校

梶原壽一 愛媛

中央商業學校

水口音三郎 德島

釜山公立商業實修學校

村田長太郎 福井

釜山公立商業實修學校

藤田改

釜山公立商業實修學校

小原政市 德島

釜山公立商業實修學校

岩瀨脩治 東京

釜山公立商業實修學校

岩瀨脩治 東京

青森市立商業學校

竹下長之 島根

岐阜市立岐阜商業學校

佐藤善次郎 宮城

茨城縣那珂郡町立海商業學校

江渡哲太郎 青森

市立長崎商業學校

貞家善三郎 愛知

久留米市立久留米商業學校

稻葉鶴次 靜岡

岐阜市立岐阜商業學校

辻文八 長崎

市立名古屋商業學校

楠木音次郎 三重

佐賀縣西松浦郡立伊萬里商業學校

室井改

新潟縣刈羽郡立商業學校

星理作 福島

佐賀縣西松浦郡立伊萬里商業學校

內田德彦 愛知

佐賀縣西松浦郡立伊萬里商業學校

岩間茂次郎 慶手

佐賀縣刈羽郡立商業學校

江口恕一 佐賀

佐賀縣刈羽郡立商業學校

山口泰藏 東京

佐友電線製造所

喜多野 常太郎 和歌山

西村義郎 京都

三越吳服店

倉本進 千葉

釜山公立商業學校

山本規 福岡

鹿兒島市立鹿兒島商業學校

太田武三郎 滋賀

新潟縣西蒲原郡間瀬銅山

鈴木源德 東京

自家營業

高津範 千葉

新潟縣西蒲原郡間瀬銅山

小黒省三 福島

自家營業

依知川治 千葉

新潟縣西蒲原郡間瀬銅山

飯田啓三 愛知

小倉市立商業學校

山手官藏 福岡

愛知縣第一師範學校

高橋福三 岐阜

長野縣北佐久郡立小諸商工學校

櫻井吉雄 茨城

鹿兒島市立商業學校

水口庄三郎 德島

市立長野商業學校

玉木勝次郎 德島

千葉縣立銚子商業學校 長谷川正致 千葉
 香川縣小豆郡内海實業學校 大和田誠壽 福島
 岐阜縣師範學校 加藤改 鶴飼喜平 岐阜
 株式會社本所銀行 楠間龜楠 和歌山
 新潟縣刈羽郡立商業學校 下妻貞雄 新潟
 京都市立商工補習學校 武田住太郎 愛媛
 大 山 綱 志 鹿兒島
 栃木縣立商業學校 瀨下改 瀨間紀太郎 群馬
 京都市立商業實修學校 橋本正路 兵庫
 福井市立商業學校 北里善從 熊本
 堀江彦太郎 愛知
 川上準一 德島
 富中參三郎 和歌山
 滋谷正秀 富山
 新潟縣新潟師範學校 德島縣師範學校 私立大阪商業學校 新潟縣新潟師範學校

山口銀行(大阪市) 山崎清記 山口
 京都市立商業實修學校 西藤杉松 滋賀
 長岡市立商業學校 久保田敬太郎 新潟
 石川縣町立七尾商業學校 福島新藏 熊本
 山口銀行(東京支店) 萩原駒藏 滋賀
 市立甲府商業學校 谷貝改 後藤清一 岐阜
 東京市神田高等小學校 渡邊進 茨城
 宮城縣石卷町立商業補習學校 宮城縣石卷町立商業補習學校 金野榮 巖手
 興業貯蓄銀行 羽賀鶴松 德島
 福岡縣田川郡小學校 重藤一郎 福岡
 同四十四年卒業(二十九人)
 京都市立商業實修學校 錫村審 新潟
 佐賀市立佐賀商業學校 千布次郎 佐賀
 愛知縣名古屋市第九高等小學校 高橋米造 東京

大塚貞雄 兵庫
 小谷大治 高知
 伊藤治平 愛知
 久保重德 愛媛
 藤森類之助 香川
 林嘉七 岐阜
 淵清八 佐賀
 宮本龜藏 靜岡
 竹内勝彌 群馬
 富永保福 岡
 永井忠茨 茨城
 日下勝治郎 兵庫
 西川隆一 愛知
 加藤止孝 秋田
 大垣町立大垣商業學校
 京都市立商業實修學校
 兵庫縣立神戸商業學校
 山形縣米澤市立商業學校
 長崎縣西松浦郡立伊萬里商業學校
 靜岡縣沼津町立沼津商業學校
 私立吉備商業學校
 茨城縣那珂郡立湊商業學校
 日本毛織會社
 上海稅關
 大日本鹽業株式會社鏡子高分局

滋賀縣神崎郡立商業學校 三浦安造 滋賀
 福井縣師範學校 矢島秀三 福井
 堺セルロイド株式會社 門山廣明 山形
 北海道師範學校 中岡俊造 奈良
 大日本鹽業株式會社鏡子高分局 小堤健雄 福島
 山形縣酒田町尋常高等小學校 田村武三郎 栃木
 栃木縣宇都宮市立商業學校 高橋清 群馬
 札幌區立商業補習學校 萩原仙政 富山
 巖手縣盛岡市立商業學校 伊藤勇吉 富山
 東京市立明川高等小學校 澤匡明 德島
 東京市精華高等小學校 西山種男 高知
 追 試 驗
 金子源三郎 群馬
 大正四年卒業生(十一人)

橫濱商業學校	八木助市 廣島	習田 敦 兵庫
仁川商業專修學校	菊田清一 愛知	原田作之助 山形
齋藤孝太郎 新潟	吉田義夫 廣島	皆川 一 茨城
高松 勤 埼玉	吉村 繁 福井	今井三吉 富山
範多商會	松井万之助 兵庫	樋口 浩 岐阜
神戸市神戸尋常高等小學校	金井 浩 兵庫	杉本司馬三郎 愛知
濱松市立濱松商業學校	木島義夫 千葉	今村直人 福岡
錦城商業學校	奥田繁藏 東京	大場健治 山形
東京市本所高等小學校	白崎 武 福井	長坂千里 長野
合計百八十三人		
同五年卒業(九人)		
北海道廳立小樽商業學校	熊本縣立商業學校	熊本縣立商業學校
愛知縣名古屋第三高等小學校	岡山縣師範學校	愛知縣名古屋第二高等小學校

卒業生府縣別表

北海道	東京	京都	大阪	神戶	兵庫	長崎	新潟	埼玉	群馬	千葉
八	四	一	九	一	七	一	一	一	一	一
自明治三十四年 至大正四年卒業										
本年卒業										
合計										
八	四	一	〇	一	一	一	一	一	一	一

卒業生府縣別表

山 秋 福 石 富 鳥 島 岡 廣 山 和 德 香 愛

歌

形 田 井 川 山 取 根 山 島 口 山 島 川 媛

一 一 八 一 五 一 五 二 三 二 三 〇 七 七

二 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

三 一 八 一 六 一 五 二 三 二 三 〇 七 七

茨 柝 奈 三 愛 山 靜 滋 岐 長 宮 福 巖 青

城 木 良 重 知 岡 梨 賀 阜 野 城 島 手 森

四 四 一 五 〇 八 | 六 五 一 二 七 三 一

一 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

五 四 一 五 一 八 | 六 六 二 二 七 三 一

調査部規程

調査材料貸付規程

第一 本部ノ調査材料ハ左記ノ者ニ限り之ヲ貸付ス可シ

アル可シ

- 第一 商業ノ改善ニ資スル事項ヲ學術的ニ調査スル爲メニ調査部ヲ設ク
- 第二 調査部ハ當分之ヲ專攻部研究室内ニ設ク
- 第三 調査部ニ委員若干名及主幹一名ヲ置ク
委員ハ本校教員中ヨリ主幹ハ委員中ヨリ學校長之ヲ命ス
- 第四 調査部主幹ハ委員會ノ議事ヲ整理シ調査補助ヲ指揮シテ材料ノ整頓ヲ掌ル
- 第五 調査事項ハ委員ノ決議ニ依リ學校長ノ許可ヲ經テ之ヲ定ム
- 第六 調査部ニ若干名ノ調査補助ヲ置ク
- 第七 調査部ノ發送スル文書ハ學校長又ハ學校ノ名ヲ以テス
- 第八 調査ノ結果ハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ發表ス
- 第九 調査部ハ必要ト認ムルトキハ銀行會社等ノ依頼ニ應シテ調査ヲナスコトアル可シ

調査部規程 (明治四十二年十月創始)

高	福	大	佐	熊	宮	鹿	沖	合
知	岡	分	賀	本	崎	島	繩	計
兒								

一七四		一		四		四		一		五		五
-----	--	---	--	---	--	---	--	---	--	---	--	---

九										+	
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

一八三		一		四		四		一		六		五
-----	--	---	--	---	--	---	--	---	--	---	--	---